

高知県教育委員会 会議録

平成26年2月教育委員協議会

場所：高知会館（3階 飛鳥）

（1）開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年2月12日（水） 13：00

閉会 平成26年2月12日（水） 15：00

（2）出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員（教育長）	中澤 卓史
欠席委員	委員	久松 朋水

（3）高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長（総括）	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	小野 広明
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男（会議録作成）
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫（会議録作成）

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 （協議内容の説明）

前回の協議会に続き、県立高等学校再編振興計画の検討案について、協議願いたい。

前回の協議会では、『前期実施計画（案）の策定に向けたたたき台』について、協議をいただいた。

本日は、高知南中学校・高等学校で行われた「保護者説明会」で出されたご意見及び“定時制・通信制”の『前期実施計画（案）策定に向けた たたき台』の協議を願いたい。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○質疑

委員長	<p><定時制・通信制について></p> <p>前回の協議会では、定時制・通信制の協議が少なかったので、本日継続協議していくこととする。</p> <p>定時制・通信制についての基本的な考え方は、検討案にも盛り込まれている。現段階では、多様な学びのニーズに対応できるということで、これらの定時制・通信制を廃止するという案ではないとのことである。</p> <p>維持していくために、これまでの「1学年1学級10人程度」から「学校全体の生徒数を20人以上」に最低基準を緩和している。</p> <p>室戸高校は、現在の在籍数が16名となっているが、この場合どのような考え方をするのか。</p>
事務局	<p>単年度だけでなく、将来的な状況も見ていかなければならないと考えている。そうした中で、これまでの入学状況を見た時に、例えば室戸高校であれば、平成22年度からの単年度の平均入学者を5名と考えた場合、今後とも20名を維持することが困難か否かを長期のスパンで考えていかなければならないと考えている。</p> <p>中芸高校も同様であるが、中芸高校については前々回（1/27）の資料2にもあるように安芸桜ヶ丘高校の在り方を検討する際に、定時制の在り方についても検討が必要ではないかと考えている。</p>
委員	<p>室戸高校や中芸高校は、他に通うところがない環境であり、夜間部は昼間に仕事をしている生徒にとっての重要なセーフティーネットであるので、できるだけ維持したい考えである。</p> <p>ただし、ニーズがどのように変わっているのかを把握したいが、中途退学した生徒が来ているのか、不登校のため全日制に行けなかった生徒が来ているのか、定時制はそのようなニーズがほとんどと思っていいいのか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりのニーズは高いと思う。中には、最初から働いているのではなく、夜間に学んでいるため昼間に就労している生徒もいると思う。</p>
委員	<p>そういった意味で見た時に室戸や中芸の地域で、今後入学生数が増えてくる可能性はあるのだろうか。</p>
事務局	<p>急激に増えることは想定しにくいですが、一定のニーズはあると思うので、その必要性は考えていかなければならないと思う。</p> <p>定時制に通っている多様な経歴を持つ生徒にとって、全日制に通うことが困難とする場合もある。全日制でそういった生徒に対応できるシステムがあれば、全日制だけでいいと思うが、現状として定時制の役割が必要で、置いておかなければならない状況である。単に在籍数が減ったということだけで廃止等にすれば、そういった生徒に対応できなくなってしまう。そういうことを含めながら生徒減少期における定時制の在り方も考えて行かなければならないと思う。</p>
委員	<p>室戸の16名や中芸の13名、清水の20名という在籍数からすると、策定しよ</p>

事務局	<p>うとしている「在籍数が20人以上」という基準が厳しくなる可能性があると思う。</p> <p>当該地域に産業があってそこで働いており、そこに定時制がないと非常にマイナスになると思う。この最低規模を明確にしたことで、維持することが困難になることが危惧されるが、いかがか。</p> <p>定時制の授業の在り方、時間割の組み方については、例えば4年で卒業するところを3年で卒業できるようにしたり、あるいはICTを活用して分室的な場所で授業を行って3年で卒業できるようにしたりするなど、色々な授業形態を研究していかなければならないと考えている。当面はこの人数であっても維持をしたいと考えている。</p>
教育長	<p>学びのセーフティーネットという考え方から言った時に、定時制を20人で切ってしまうと、原則論から言えば廃校になってしまい、この学びのセーフティーネットがなくなってしまうのではないかと、という質問だと思うが、通信制がどこまでカバーできるかという議論とセットになってくることだと思う。そこを勘案しながら、学校としてどうしていくかの議論になってくると思う。学びのセーフティーネットと考えた時に、ルールとしては20人以上と決めながらも、すぐそうなるのかという少し慎重に考えなければならないと思っている。</p> <p>基本的な考え方として、20人以上は欲しいという計画にしておきながら、現実の時には、いつからどうするか教育委員会で具体的に意思決定していくことになるから、そこでの議論を踏まえて判断してはどうかと考えている。</p> <p>過去には、窪川高校の定時制で募集停止を行った。まだ入ってくるかもしれないと少し様子を見たいうえで、増える様子がなかったことから廃止することに決めた経験がある。</p>
委員	<p>通信制で補完するというのは1つの形だと思うが、生徒からすれば教育の中身は全く違うものになるし、生徒がさらに減少してきた時に、維持しようとすれば人件費の問題も出てくる。</p> <p>そのような時に（通信制ではなく）定時制だけれども、主任だけを置いておき、授業はICTを使って、通信による遠隔授業を行う方法などによって人件費をカットするなど何かしらのコストカットを図りながら、現状の定時制を維持していただきたい。</p>
教育長	<p>検討会の中でも、“もっとICTの活用を考えるべき”との意見は出ていた。過疎地域で、ICTの活用ができるようであれば、定時制でも可能だと思う。また、委員のご意見のように、定時制に行けないために通信制に行っている生徒のために、定時制の在り方を変えることで、通信制ではなく定時制に在籍できる環境を作っていくことも1つの考え方だと思う。</p>
委員	<p>働きながら学ぶうえで便利だから、高知市内の生徒が北高校に通っていると思うが、北高校への希望者が増えた場合、2学級にすることはあるのか。受入体制は整っているのか。</p>
事務局	<p>過去には80名定員の時もあったが、丸の内高校のチャレンジ枠を設けたりす</p>

	<p>るなどの整理の中で 40 名定員にしている。施設面の問題により定員をこれ以上にすることは困難で、これ以上は通信制での対応になる。</p>
委員	高知市内では、丸の内高校のチャレンジ枠が次の受入学校になるのか。
事務局	<p>現行の再編計画では、丸の内高校にチャレンジ枠を設けて不登校だった生徒を受け入れることができるようにした経緯がある。</p>
委員長	北高校の昼間部・夜間部に入学できなかった生徒は、周辺部の定時制に行くことになるのか。
事務局	周辺部の定時制を目指す場合もあるが、それよりも通信制を選択するケースが多いようだ。
委員長	周辺部の定時制は、減少傾向にあるのか。
事務局	生徒が減少しているため少し減少傾向にあるが、概ね横ばいである。
委員長	不登校や発達障害等の生徒が減らないニーズもあるということか。
事務局	<p>そういった生徒については、前回のたたき台で示したように、城山高校や高岡高校を含めて対応していきたいと考えている。不登校については、それを理由に合格しないということは無く、実際に市内の高校にも中学校の時は不登校だったが、高校に入学してからは元気に通っている場合もある。</p>
委員	平成 15 年と平成 25 年度の在籍数を比較すると、学校によって極端な減少が見られるところとあまり減少していないところがあったり、高知工業高校では学科によって特徴があったりする。その減少率について分析をしているのか。
事務局	<p>1 つには、生徒数の減少が大きく影響していると考えており、特に東部地域については、その減少率が大きい。</p> <p>高吾地域は仕事をするにも高知市内が便利で、併せて定時制へ進む場合も高知市内を選択する傾向にあり、その分地域の定時制が減少傾向にあると思われる。</p>
委員	減少率の大きい室戸高校、中芸高校は 10 年後においても現在の在籍数のまま推移していくのか、それとも同じような減少をたどるのか。
事務局	定時制においては、中学校新規卒業者の入学生だけでなく、高校中途退学者を含め中学校過年度卒業者の入学生が、毎年度 2・3 名はいる。
委員長	例えば中芸高校定時制の分室として、室戸高校定時制教室を置くようなことは制度的に可能か。
事務局	中芸高校の夜間部教員が、兼務で室戸高校夜間部へ行くことはあり得るし、勤務形態といった時に、どこまで可能になるかの問題はあある。
委員長	定時制の制度で、毎日通学はできないが、月に 1 回くらいは学校に集まるようなやり方は考えられないか。
事務局	<p>生徒が減った時に通信制にしていくのは簡単なことだが、定時制として残したい時に、そのような方法は考えられないかということ。</p> <p>八田委員がおっしゃったような ICT を活用した遠隔授業になると思う。研究するのであれば、例えば室戸高校の教室を置いておき、中芸高校の授業を双方向で行うことなどが現実として考えられる。</p>
委員長	定時制は、教員と顔を合わせる対面で、通信制は教師が直接教えるのではなく

	<p>機器による授業ということになるのか。</p> <p>今のところICTの活用は、通信制が中心になるのではないか。</p>
事務局	<p>そのとおり。集中講義や通信制のスクーリングがそれに当たる。例えば、数学や英語については、当該教室で教員による授業を受け、理科と社会は普通の教室でやっておき、週に1日だけ集中講座的に受けるやり方がある。これが定通併修のパターンになると思うので、もう少し研究をしたい。</p>
委員長	<p>現行制度では、通信だけで定時制の課程を修了することは困難である。</p> <p>通信制としては、北高校と大方高校で維持していこうという考え方で、清水高校定時制が少なくなれば、通信制を使っていくということも考えられると思う。</p>
委員	<p>教員の配置の際には、生徒数が少なくてもそれぞれの学校に定時制には定時制として配置されるのか。</p>
事務局	<p>そのとおり。ただし時間数の少ない教科では、時間講師による対応をしている場合もあるが、基本的には正規の教員及び講師を充てている。</p>
委員	<p>“進学にも対応できる学習指導や進路指導の充実”とあるので、主要教科については正規教員を充ててもらいたいと思った。</p>
事務局	<p>期限付き臨時講師を配置する際も、当該学校で1年間教育活動をしっかり行うことができる者を意識して配置している。</p>
委員長	<p>定時制・通信制については、この方向で進めていただきたい。</p>
	<p>【高知南中学校・高等学校「保護者説明会」での意見について】</p> <p><たたき台の示し方について></p>
委員長	<p>我々教育委員会としては、昨年2月に県立高等学校再編振興に関する報告が出されてから、勉強会や意見交換、学校訪問を行うなど議論を重ね、この時期となった。</p>
委員	<p>表に出した日のことに異論はあると思うが、これをもっと遅らせ入学後に出したところで、「入学したばかりなのに」と、同じように異論はあると思うので、時期は仕方が無かったように思う。</p>
委員	<p>教育委員会としては、年末から公開の場で協議しているが、それまでに十分な時間をかけて議論してきた。影響の大きいたたき台を出すことについては我々も危惧しながらやってきたので、それを拙速な形で出すことができなかったというのが言い訳と言えば言い訳となる。しかし十分に議論して表に出すというのが私の認識である。</p>
教育長	<p>保護者の意見には、「25年2月に報告書が提出されて、なぜ1年も経過したのか」ということもあるが、もう1つ「なぜ、この入学試験の頃に出すのか」ということもあると思う。</p> <p>確かに入試を控えた生徒の心に与える影響もあろうかと思うが、遅らせても竹島委員がおっしゃるような、「入学後にそのようなことを言って」ということもまた出てくる。前に持ってくるには、内容が重大で時間がかかったということ。</p>

委員長	<p>保護者等の気持ちはよく分かるが、誰もが納得する時期に出せなかったというのが、正直なところである。</p> <p>総務委員会でも保護者の意見を代弁して、高知南中高を残してほしいという意見が出ていた。</p> <p>全うな意見だと思うし、我々教育委員会としても高知南中高の振興、存在価値を高めるための取組をしてきているので、別に南中高がダメだから、統合させるわけでは全くない。</p> <p>その時の答弁でも、保護者の方がそのような思いを持たれるその気持ちはよく分かるし、ある面、それが当たり前だと思う。そうした中で将来を見据えて、統合を進めていくという辛い仕事をしているという話はさせていただいた。</p> <p>たたき台の示し方についての考え方は、説明のあったとおりでよいと思う。</p>
委員長	<p><適正規模の維持等について></p> <p>県下全体での適正規模は4から8学級としているが、中学生の希望の多い高知市中央部は、より活気あふれる学校づくりができる6から8学級の規模を適正としている。</p>
委員	<p>この点は、非公開の検討会で随分議論したが、本来の学校の適正規模は6学級以上が望ましいと思っている。学校に活力があり、色々な部活動が置かれていることを考えた時に、6から8学級という本来の適正規模をきちんと謳うべきだと思う。</p> <p>4から8学級とした経緯は、前回（現行）の振興計画で、郡部では6学級は難しいので、仕方なく4から8学級を適正規模とした妥協案であって、本来の教育の成果を上げるためには、6学級が妥当とすることをもう1回明確にすべきだと思う。</p>
教育長	<p>それだと、東部地域・西部地域はダメとはせず、郡部でも最低限の4学級は確保しようとするスタンスを確認する必要があると思う。</p> <p>（ここに書いていないが、）この計画は10年後を見据えたのもので、さらに10年経過後の20年後に生徒数が増える含みがあれば、その期間は4学級程度で頑張ってもらい、学校を減らさずに置き、残すという選択肢もあるかもしれない。10年過ぎ、その後を見据えるとさらに減っている。そうしたことが分かっている中で、これを先延ばしするのは、責任のある教育行政とは言えないのではないかと思う。</p>
委員	<p>現実に存在している学校を統合していくのは、関係者にとっては大変残念なことであるけれども、将来の高知県の子どものことを考えれば、この難しい問題にきちんと対応していくことが責任ある教育行政ではないかと考えている。</p> <p>4学級なのか、6学級なのかの話が出ているが、1学級40名が6学級だと240名で、4学級であれば160名になる。1学年で80名の生徒が減ることで、こういったメリット・デメリットがあるのかというような情報を発信していかなければならない。単に4学級以上、6学級以上と言うだけでは、保護者の納得は得られないと思う。今後、そのあたりの丁寧な説明が必要だと思う。</p>

委員長	おっしゃるとおりだと思います。メリット・デメリットを具体的に説明する必要があると思う。
教育長	<p>事務局から6学級を5学級にした時に、1校で教員が8人減るとの試算が報告されたが、教員の数が減ると様々なカリキュラムや教科をうまく回せなくなるという教育の中身の問題が出てくる。</p> <p>「それは国の基準で減るのであって、県単でその分の教員を用意すればいいのではないか」との議論も出てくると思う。しかしながら、現実の問題として、高知県の状況は過疎地域に小規模な高校がたくさんある。そういった所では、教科や教育活動をできるだけ充実させるために、かなり無理をして教員を配置している。それを全部の学校でできればいいのだけれども、現実の教育行政としてそこまでなかなかできない。</p> <p>そうはせずに、統合して規模を確保することによって、教員や教科の確保ができる。なおかつ、高校生くらいになると友達どうしの中の切磋琢磨で成長していくので、そうした環境を作っていくことが教育行政の在り方だと思っている。</p>
委員長 事務局	<p>国は、本校の適正基準なるものを出しているのか。</p> <p>国の定めている本校の最低規模は、1学年2学級、3学年で6学級の計240名としている。</p>
委員長	<p>適正規模については、5学級までと6学級とでは、選択科目の開設等に関係して教員の配置数が変わってくるとしており、5学級と6学級の間には一定のラインを置いている。同じように2学級から下がると、教員の配置数も大きく下がることになる。</p>
委員長 事務局	<p>四国4県でも統廃合を行っていると思うが、本県の場合は学校を存続させようということで案を作っている。他県と比較した時に、何か本県との違いはあるか。</p> <p>四国の場合は、現行の4から8学級を適正としているが、県によっては6から8学級を適正としており、統合によって規模を大きくしようとしている。</p>
事務局 教育長	<p>ちなみに、全国3,459校あるが、4から8学級規模の学校が74%、4学級以下が16.4%、6学級の学校が26.2%、7学級の学校が20.8%、8学級の学校が18.9%と全国的に見ても6から8学級の学校が多い。</p> <p>高校がそこに存在するということは、1つは教育効果をどうしていくかを基本にして考えていかなければならないと思う。</p> <p>現行の高知県の高校再編計画では、本校は1学年2学級で、それを1学級になれば統合するという基本的な考え方である。これ以上は、教育効果を考えると難しいという状況（考え方）があった。</p> <p>しかし今回の計画は、高知県の地理的な要因や人口の散ら張り方や産業構造などを考えた時に、今の計画をそのまま当てはめて、単に教育効果だけで考えて当てはめていくのはまずいのではないかということで、過疎地域の学校はできるだけ残すという大きな考え方の転換を今回はしている。それはコストがかかるし、教育効果から考えても色々な問題がある。</p>

	<p>色々な問題はあるが、別の価値観も踏まえて、県教委としてはできるだけ残しながら小規模校も振興していくという方針を思い切って出したところ。ここが前回と大きく違う。</p>
<p>委員長</p>	<p>他県では、4学級になればすぐに統廃合にするような決め方のところが多いと思う。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>特に徳島県は、待ったなしで統廃合を行うような再編振興計画である。</p>
<p>事務局</p>	<p>本県の場合は、4から8学級の基準を設けながら、できれば6学級は欲しいと示している。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足だが、1学年1から2学級規模の学校というのは、ほとんどが北海道である。北海道は交通の便を考えた時に、1学級規模であっても残さなければ、学びの場が保障できないことがある。</p>
<p>委員長</p>	<p>適正規模について、よろしいだろうか。</p>
	<p><なぜ高知南中高校なのかについて></p>
<p>委員</p>	<p>津波は、高知工業と同じ3mなのに、なぜ高知南なのかとの質問に、どのように説明したのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>リスクのある高校はいくつもある。その時にリスクを減らしている。一気に減らすことはできない。だから、「高知南中高校も高知工業高校も条件は同じなのに高知南中高だけというのはおかしくないか」という議論は、物事の本質を捉えていない議論だと思っている。</p>
	<p>今回のように1つの機会があり、全体の高校再編振興を考える中で、高知南中高校が統合の対象となり、そこが津波の危険性が高いのであれば、それを取り除く必要がある。高知工業高校はまた別の手立てを考えていかなければならない。</p>
	<p>うまくいくか否かは別として、よりよい教育環境を作るためにリスクを減らしていくという考え方である。</p>
<p>委員</p>	<p>2ポツ目の「学区撤廃で高知市に生徒が集まるようにしておいて、…」という意見が気になっている。これが現実に保護者が捉えていることだと思う。学区を撤廃することで、どこの学校でも行けるように自由度を上げたことは、生徒たちにとっていいことだと思うが、結果的にそれが中央部への生徒の集中につながっている。</p>
	<p>この現象は裏を返せば、地域の学校の活力や学習内容に不満があるということを反映したものであると思うので、そこに対して対策をしていくことが必要であると思う。</p>
	<p>生徒たちが、あえて遠くから高知市中央部に通うのは自由だが、毎日通学のために何時間も使うのは生徒たちにとって大きなマイナスになると思う。これを克服するには、各地域に活力のある学校を維持していくことを考えなければならない。</p>
<p>委員長</p>	<p>このように保護者が捉えていることを反省しなければならないと思った。今回の高校再編振興計画でも、東部・西部それぞれに進学に関することであれ</p>

教育長	<p>ば、進学拠点校を置き、充実させようとはしており、その面での対策は盛り込まれている。</p> <p>また、郡部の学校を閉校するとなると、さらに当該地域の生徒が高知市内への集中を助長することになるが、そうではなく、郡部の学校も残し、教員の指導力を高めて郡部の学校が活性化するようにしていかなければならない。</p> <p>震災後は、できるだけ早く学校を再開したいとしているが、早い段階での再開が難しい学校については大きな課題となる。</p> <p>リスクを取り除く機会（チャンス）のある学校は、リスクを取り除くことを考えていく。</p> <p>検討委員会の議論の中で、「中央部の高校は現実として人気があり、郡部から高知市内へ入ってきている傾向がある。1つの政策論（誘導論）として、例えば高知市の高校の定数を絞れば、周辺部の高校の定数の充足率は上がるだろう、そのやり方も考えられる」とする議論もあった。</p> <p>しかし検討会の結論は、そういったことではなく、市内の生徒が減ってくるから、減った分を自然体で高知市内の定数を減らしていくのは、妥当なものの考え方ではないかということであった。</p> <p>人気があるから、高知市内の定数は据え置きにし、郡部を受け入れた方がいいのではないかという考え方もあるが、そうすると周辺部はますます寂れていくので、思い切って定数を絞って周辺部の充足率をあげていくべきではないかという議論もあった。</p> <p>しかし、高知市内の生徒数の減少にあわせて、市内の定数を減らしていくというやり方が妥当だとするのが検討委員会の報告である。</p>
委員長	<p>保護者の意見の中には、“高知南中高校は人気があるのに、どうして…”という意見があるようだが、我々としての考え方も、高知南中高校が悪いから統合しようとしているわけではないので、その考え方についても理解をしてもらわなければならない。</p>
教育長	<p>高知県の高校再編振興計画では、これまで大栃高校にしろ、仁淀高校にしろ、過疎化で人口が減り、生徒が減ってきたから統廃合をしていった。</p> <p>そういった場所がない高知南中高校を対象とするのは初めてなので、違和感を抱かせ、驚かせたことから、それが意見の中に感情として入ってきたと思われる。</p>
委員	<p>保護者、在校生、OBなどの立場からしても、高知県全体、高知市内の人口減少や津波の影響も事実として理解できると思うが、なぜ高知南中高に白羽の矢が立ったのかが理解できないのだと思う。それが、このような意見になっていると思う。</p> <p>これはある意味、関係する人間にとっては仕方のない感情だと思う。どんなに議論を重ねてもそこを埋めることは難しいと思うが、だからと言って説明しないのではなく、丁寧に1つ1つ総合的に考えて、高知南中高という話が出てきたということを根気強く説明し、少しでも納得していただくようにしていかなければならないと思う。</p>

<p>委員長</p>	<p>個人的な話になるが、私の母校がなくなる時には、やはり悲しかったし、嫌な思いをした。</p> <p>高知南中高校に関係する皆さんが、理論的な話では納得できない感情を持っていることを認識したうえで、十分に説明を考えなければならない。</p> <p>大事な意見だと思う。感情的には、なかなか納得できないと話だと思うが、どれかを選択しなければならない状況になるわけで、そこは丁寧な説明によって理解を求めていかなければならない。</p>
<p>委員長</p>	<p><生徒へのケアについて></p> <p>これまでも生徒へのケアについては、協議してきたが、もう一度意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>1月27日の資料3の募集停止の時期を示すグラフで、最終的に34年度には1学年のみになることに、すごくひっかかっていたが、本日の資料で別の移行の仕方もあるということ分かり少し安心した。</p> <p>高校生活は色々なイベントがあり、思い出は大きいので、最後の年に1学年のみというのはどうかと思っていた。統合と謳っているのであれば、最後が1学年のみとならないように、うまく西高校と連携できないかと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>今の案(1/27の資料3)は、現在の高知南中高校の校風を大事にしながら、入学してきた生徒が高知南中高校の校風の中で卒業していくためには、このやり方がいいだろうということで、たたき台として示している。</p> <p>今までもそういったやり方でやってきているが、今回は中学校からの統合であり、移行する期間が非常に長い。</p> <p>長い期間、そういう形で置いておくと、今いる生徒にとっての活力という面で問題があるのではないかという意見もいただいている。</p> <p>では、もっと短くする、あるいは統合する際の移行の仕方は、他に方法が無いわけではない(後ほど説明する)。ただしそれぞれに長所もあれば短所もある。我々はたたき台を出しているが、他にもあるにはある。</p>
<p>委員長</p>	<p>(資料4の説明)</p>
<p>教育長</p>	<p>資料4は誤解を招く恐れがあると思う。検討案1・2の統合の仕方は、考え方としてはできるが、現実的に学校運営の面から見ると、これまでにやったことはなく、非常にやりにくいやり方だと思う。</p> <p>委員長がおっしゃるとおり、資料4の検討案1の左の表は南中高校だが、平成30年に、将来西高校へ内進する中学生が入学してきた時から、従来の南中学校の校風では無くなると思う。</p> <p>中高一貫校として一生懸命築いてきた学校の文化が、ここですらと変わってしまう。それを委員長は学校運営が困難になるという言い方をしたが、そのような問題がある。</p> <p>右の表の西高校には、西中学校から内申してくる生徒と、南中学校から入学し</p>

委員	<p>てくる生徒と一緒に学校に入ってくるようになる。</p> <p>すると、ここでも今まで築いてきた西高校の校風に違う文化が混じってくるようになる。</p> <p>なので、検討案1では、双方の学校の校風がこの段階ですごく変わってしまい、難しい学校運営を強いられることになる。</p> <p>検討案2も似たようなものである。</p> <p>現実にもその学校の校風は、長い年月をかけて生徒・教職員の努力などによって作られているので、違う校風の文化が突然入ってくると学校運営がむつかしくなるため、この部分を触るのはリスクが高い。</p> <p>なので、事務局としては少し時間がかかっても、たたき台であればその文化の中に生徒に来ていただいて、その文化の中で生徒を卒業させることができるのではないかと考えている。</p> <p>たたき台は従来のやり方と同じだが、ただしこれまでは高校3年間だったが、中学校と高校が一緒になるために、この移行期間が長いという問題があるのは間違いない。</p> <p>前回、保護者の意見を聞いて、この問題が最も気にかかっていた。</p> <p>6年間は非常に長く、最後に入学した生徒に、ずっと寂しい環境を強いるのはどうか思っていた。</p> <p>また、この統合は、高知南中高校に課題があるから統合しようとするものではなく、本来は、中高一貫教育がうまくいった成功事例をもって、グローバル教育を先駆けて行い、うまくいった学校にするための統合であったと思う。</p> <p>しかし、たたき台をよく見るとそのような統合になっていない。高知南中高校のいいものを、どのように高知西中高校に反映させるかというストーリーがどこにもない。</p> <p>このたたき台を見た保護者の中には、統合になっていない、廃校ではないかという人がいてもおかしくない。</p> <p>何らかの形で、高知南中高校のいいところを高知西中高校に持っていくようなやり方をしつつ、かつ6年間引っ張らずに統合するやり方があるのではないかと前回から考えていた。</p> <p>そこで、個人的に考えたことは、案1・2でもなく、来年の高知南中学校の入学生から、中学校は3年間高知南中学校に行き、進学先は高知西高校とする。その間は高知西高校の教員が、高知南中学校に授業に行くような移行の仕方があるように思う。</p> <p>たたき台や案1・2のいずれも、平成32年まで高校の募集を続けてしまうが、データを見ると平成30年、31年、32年とこの3年間で生徒数は激減する。それを考えると、できれば平成30年ぐらいで高校の募集を停止にした方が本来の趣旨に叶っていると思う。そうやって高校を平成30年、31年ぐらいで募集を停止し、31年、32年ぐらいで終了できるようにする。中学校は、その年から高知西高校との連携教育をしていくようなやり方をすれば、中高一貫教育のいいものが移せるのではないかと考えていた。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>教育長がおっしゃるように、当該学校がもっている歴史や伝統を最も大事に考えた案がたたき台である。一方で、できるだけ時間をかけずに積極的に統合するという対極の案がまだあると思うので、これはもう少し議論をするべきではないかと思う。</p>
委員	<p>最初のたたき台を見た時に、これでは生徒はほとんど来ないのではないかと思った。今は案を持っていないが、もう少しいい案を考えて、学校生活が楽しいと思えるようにしてあげたい。</p>
教育長	<p>来年、入学する生徒は、高知南中高校があるという前提で入学してくるので、その思いをきちんと叶えようとした時に、実はこれだけ時間がかかってしまうことになる。その前提でのたたき台となっている。</p> <p>もう1点は、委員がおっしゃったように、ある時点から南中学校に入学した生徒は、西高校に内進するような案である。</p> <p>つまり、その段階で西中学校の併設中学校が、南中学校にあるようなイメージになると思うが、そのようなやり方も理論的には考えられる。</p> <p>しかしながら、現実の問題として、西高校の学力レベルは、高校入試で一定のレベルがあって、それ以上の生徒を合格させている状況である。</p> <p>南中学校の場合は、中高一貫教育であることから、高校入試がない前提で6年間の教育を行っているので、生徒が随分違い、学力差が随分ある。</p> <p>そうした生徒が西高校に内進した時に、これまでの西高校が築いてきたものを維持できるか否かのリスクがある。それぞれ一長一短ある。</p>
委員長	<p>高校入試の段階、1年生の段階で、学力差は出てくると思う。</p>
教育長	<p>現行の追手前や小津、西高校などは、高校入学前の入試を経て入学してくるので、その時点で個別の点数が分かり、生徒の学力レベルの差はあまり大きくない。</p>
委員	<p>しかし中高一貫だと、高校入試を行ってなく、実態として大きな幅があると思われる。そういう生徒が全て西高校に内進した時に、その生徒は幸せかという問題が出てくる。</p> <p>そこで、西高校の先生たちに自分たちが受け入れるのだという覚悟をもって高知南中学校に行き、一生懸命引き上げるといふ準備はいずれしなければならないと思う。少し手間はかかるかもしれないが、何かそのような対案は練ってもいいのではないかという気がする。確かにどれも一長一短あり、これがベストということは無いと思う。</p>
委員長	<p>そのように考えるとたたき台は極端な例だとも思える。</p>
教育長 事務局	<p>この部分はまだ改善の方法があるかもしれない。</p> <p>八田委員の案も1つの案であるので、もう少し事務局で考えることとする。</p> <p>今年・来年の入学生は6年間最後まで、高知南中高校の教育をしっかり受けるという部分が変わらない限り、どうしても期間は長くなるし、どこかでリスクは出てくる。事務局で色々考えたが、まずは平成26年度、27年度入学の生徒がどうなのかを最初に考えなければならない。この条件を外さない限り、移行期間を短縮することは難しい。</p>

教育長	委員が言うように、平成30年度くらいで生徒がどっと減ることを見据えれば、もっと早くすればいいのではないかという考え方もある。
事務局	今、入学してきた生徒をきちんと面倒をみるということでは、前倒しはできないけれども、後ろへこかして期間を短くすることはできる。
委員長	例えば、検討案1の高校1年の☆印のところは、外進生も含まれ進級していくわけだが、この時に外進生を入れずに内進生だけで進級していく3年間の経過措置も考えられないこともない。
事務局	検討案1・2そのままの学校運営は到底無理だと思う。たたき台を中心にしながら工夫する方法はないだろうか。
委員長	移行期間の生徒達は、部活動等で困ると思う。今は連合チームを組むこともあるようだが。
事務局	そうすると、部活動は高知南中高校と高知西中高校の合同チームになると思う。
委員長	検討案1では、高知南中学校の卒業生は、高知西高校の卒業になるのか。
事務局	学籍等、全て高知西高校に移管することになる。
委員長	そうした時に生徒たちの活動の中で、教育そのものは手厚い指導ができると思うが、その他の部分はどうか。
事務局	生徒が少ないことによって、部活動や体育祭、学園祭などの学校行事において、運営が難しくなる。
委員長	何度も言うようだが、検討案1・2では、現実的に学校経営をしていくことは困難だと思う。
教育長	学校長を務めた経験のある委員長の想定は、確かであると思う。
委員長	我々も最もリスクが少ないのは、たたき台とと思っているが、移行期間が長期間になることが短所である。
教育長	生徒たちの活動が阻害されるものを補う方法を考えなければならない。
委員長	学校が違うものを数合わせで、同じ箱の中に入れるのは、うまいやり方ではないと思う。
教育長	義務教育であればどこでも同じような教育をやっているのだから、統合もしやすいだろうが、高校は難しい。
委員長	たたき台をもとにして、改良を加えられるところが改良してもらいたい。
教育長	本件については、生徒たちにマイナスにならない方法を考えなければならない。
教育長	今までにない学校規模である。過去の経験からいうと、大柝や仁淀でも最終的には1学年だけになったが、もともと規模が小さい学校であって、教職員が頑張って生徒が晴れて卒業していくように上手に遂行したと思う。
委員	今回は規模が大きいので、大変なことである。
委員長	規模だけではなく、今回は廃校ではなく、統合でもあることにこだわりを持って取り組まなければならない。
委員長	統合であるが、高知南中学校高校と高知西高校のいいところを引き継ぎながら、新しくグローバル人材の育成を目指した新しい高知西中高校を作っていこ

委員	<p>うとするものでもある。</p> <p>このような方向性でありながら、お互いに知恵を出しあいたい。</p> <p>いただいた意見の中に、高知市内にエレベーターを設置しているのは、高知南高校、小津高校、高知商業高校、中学校では、潮江中学校と高知南中学校しかないとの指摘があった。</p> <p>バリアフリー化について、どういった考え方なのか。</p>
事務局	<p>今の状況では、耐震化工事を行う際に、バリアフリー化に向けてどういったことができるのかを議論して、設計して検討している。喫緊の場合では、障害を持った方が入学することがある場合には、すぐには設置できなくても、優先順位を早めて設置をするようなことも検討している。</p>
教育長	<p>エレベーターを設置している学校はまだ少ない。ただし必要があれば作っていく。現実には障害のある生徒が入学してくることが分かった場合に直ちに設置をしている。</p> <p>これからはそういうことではなく、そういう生徒が入ってくる前提で整備していかなければならないと考えている。</p>
事務局	<p>保護者会でそういった回答をしたが、それはもったいないではないかとの話があった。</p>
教育長	<p>それは次元の違う話だと思う。</p>
委員長	<p>他にご意見がなければ、以上で閉会とする。</p>